

平成 28 年度第 9 回霞ヶ浦自然観察会結果報告

「晩秋の湖岸植物を観察しよう！プラス陸平貝塚見学」を実施しました。

開催日時：平成 28 年 11 月 5 日（土）午前 9 時 00 分から午後 4 時 00 分まで

開催場所：稲敷郡美浦村馬掛および美浦村土浦（陸平貝塚周辺）

参加者：22 名

今年度最後となる植物をテーマとした自然観察会は、一日で様々な植生を観察できる美浦村馬掛周辺を観察地を選びました。水田の畦畔に生える植物から湖岸の植物、台地の下また台地の上の植物と数多くの植物を観察することができました。

講師は楽しくかつ分かりやすい植物解説で大好評の福田良市先生でした。

当日、センター出発時は小雨がぱらつき、天気が心配されましたが、観察会開始前には完全に雨も上がり、やがて青空も広がる絶好の観察日和となりました。

午前中は湖岸に向かって広がる水田地帯から観察を始めました。稲刈り後の水田風景は一見地味に感じますが、秋の草花がきれいな花や実を付けて彩りを添えていました。湖岸に到着すると堤防わきの水路では、ススキやオギなどが秋の風景を演出していました。湖岸に目を移すと特定外来生物のミズヒマワリが所々に群落を作っていました。繁殖力が強く近年問題になっています。霞ヶ浦湖岸について福田先生のご説明では、以前は一番水際にマコモの群落があり、その後ろにヨシの群落という順番で植生を作っていたものが、マコモが非常に少なくなり、水際からヨシになってしまっていること、そのヨシも波にさらわれて少なくなっているそうです。

さらに馬掛不動尊がある台地の下で自然環境保全地区に指定されている場所では、スタジイやシロダモ、タブノキなどの常緑広葉樹林と、その下に生える植物を観察しました。そこで見たコモチシダは葉の表面に少しですが無性芽が見られ、名前の由来がよく分かりました。

午前の観察終了後は陸平に移動して昼食・休憩にしました。休憩時間に文化財センターの展示を見学させていただきました。陸平貝塚を訪れるのは初めてという参加者の方も多く、歴史の勉強もできて良かったとの感想を多く頂きました。

午後の観察では、福田先生が霞ヶ浦環境科学センターで担当されていた野外講座の時代までさかのぼっても初出現となるメハジキやアキザキヤツシロランも見られました。特にアキザキヤツシロランは福田先生が下見の際に見つけたそうで、参加者のみなさんも福田先生の長年フィールドで培った植物を探し出す能力に感嘆していました。

今年度の植物の観察会は今回が最後になりましたが、来年度も季節に合わせて霞ヶ浦流域の自然豊かなフィールドでの観察会を企画したいと思いますので、引き続き御参加頂きたいと思います。

今年度最後の霞ヶ浦自然観察会は年明け平成 29 年 1 月 22 日（日）に野鳥の観察を雪入ふれあいの里公園の川崎先生を講師にお招きして行います。御参加お待ちしております。

参加者のみなさん、福田先生、美浦村文化財センターのスタッフのみなさん、パートナーのみなさん、大変ありがとうございました。

環境活動推進課 福井正人

観察会の様子と観察した植物の一部を御紹介します。



講師の福田先生です。



観察は水田地帯からスタートしました。



ススキの穂が秋風に揺れていました。



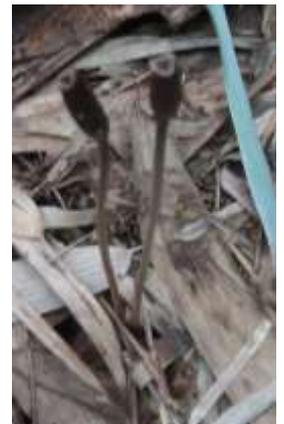
ミズヒマワリです。繁殖力が強く特定外来生物に指定されています。



コモチシダ，無性芽が付いています。



メハジキです。



アキザキヤツシロラン



陸平貝塚にある広場と復元された竪穴式住居。

観察した植物はおよそ 190 種類でした。